



第25回木材保存技術奨励賞

「ヒラタキクイムシ防除のための産卵誘導方法及び
産卵制御効果を持つ殺虫剤の実用化」

馬場庸介 (住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社)

近畿大学大学院 農学研究科応用生命化学専攻卒業 (2004年), 同年4月よりシントーファイン株式会社 (現 住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社) に入社。研究開発部, 開発技術部門 精密化学品技術グループにて, 木材防カビ剤, 防腐防蟻剤, 防虫剤などの木材保存処理用薬剤の研究開発, 技術支援業務に従事。2014年4月より環境薬剤事業部 木材保存剤営業部へ異動, 木材保存処理用薬剤の販売, 開発を担当し, 現在に至る。

業績概要

住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社は, 住化ライフテック株式会社と住化エンビロサイエンス株式会社との経営統合により2014年4月に発足いたしました。会社としては新しくなりましたが, 当社のビジネスは昭和13年の殺菌剤, 防カビ剤の生産販売に遡ることができ, 以来, シロアリ防除剤, ヒラタキクイムシ対策防虫剤, 木材防カビ剤など数多くの木材保存剤を開発販売してまいりました。

今回, ヒラタキクイムシの効率的な防除方法の確立を目的に, ヒラタキクイムシに対する試験方法を検討し, これまでより簡易な方法により人工環境下で安定的に産卵させる方法を見出しました。本方法を用いて, 殺虫成分の産卵抑制効果や孵化抑制効果の評価を実施し, 薬剤種によりヒラタキクイムシの生育段階で薬剤の効果が異なることを明らかにいたしました。

今後の取り組み

昨今, ヒラタキクイムシ類による被害として, アフリカヒラタイクイムシなどによる被害が全国的にも報告事例が増えており, 今後も住環境の変化により被害が拡大することが懸念されます。今後も, ヒラタキクイムシ類の生態に則した試験方法や, 防除方法を検討し, より効率的な防除方法などの開発を進めていきたいと考えております。

主な成果報告

- 1) 相奈良賢治, 馬場庸介, 松永忠功: ヒラタキクイムシに対するネオニコチノイド系化合物の基礎効力, 日本環境動物昆虫学会 第21回年次大会, 2011
- 2) 馬場庸介, 相奈良賢治, 松永忠功: ヒラタキクイムシの防除方法の検討 産卵誘導方法及び殺虫成分による産卵抑制効果の検討, 第61回木材学会大会, 2011
- 3) 馬場庸介, 相奈良賢治, : “ヒラタキクイムシ (*Lyctus brunneus*) の防除方法の開発 - 産卵誘導方法の検討および殺虫成分による産卵・孵化抑制効果の評価 -”, 木材保存, 40 (2), 64-69 (2014)

